

主任コラム5月号

主任 澤井 良子

新年度が始まり1カ月が経ちました。新しいお部屋や保育士、お友達にも慣れてきて、保育園生活の時間の流れも子ども達自身つかみ始めてきたのかなと見ていて思います。

3・4・5歳児クラスでは、選択活動で大きなホワイトボードを活用しているのですが、保護者の方と登園してくると、『今日は何かな?』と話していたり、書いてある字を読んだりしている姿が見られます。そして、好きな活動を自分で選んだり、好きな友達と話し合って決めたりする姿が見られます。

ある日の選択活動は、「お部屋」・「貨物列車（集団遊び）」・「爆弾ゲーム（集団遊び）」となっていました。翌日も同じ選択活動だったのですが、ある年長の男の子が『おれさ、昨日お部屋だったで、爆弾ゲームしたいけど、できるかな?できやんだら嫌だしな』と呟き悩んでいました。私は「出来やんでも教えてもらってしてみたら?せっかくやりたいと思っているのに」と声を掛けましたが、年長児の男の子はまだ悩んでいました。すると、そこに年少の女の子が登園してきました。女の子が活動を悩んでいると「爆弾ゲームやらへん?」と声をかけ、女の子と一緒に爆弾ゲームを選ぶと、男の子は嬉しそうにお部屋へと行きました。

また別の日のコーナー遊びの時間では、新入園児の年少の女の子が部屋の隅で遊びに入れずに、製作コーナーの年長の女の子の姿を見ていました。保育士と似顔絵を描いていた年長の女の子が、ふと新入園児の女の子に気が付き、傍に行って話しかけました。そしてコーナーの開閉ボードを一人で見に行ってから、またその女の子に話しかけて「〇〇ちゃん、プリズモしたそうだけど開いてないからな」と呟き製作コーナーに誘っていました。新入園児の女の子は嬉しそうに、年長の女の子達の絵を見ながら色塗りを始めました。声を掛けた年長児の前担任にその話をすると、「年長児の女の子は年少の時に、年長児から可愛がってもらっていたので、今年自分が年長になり、年少の時に自分がしてもらった経験を返していつているのかな」と言っていました。

これらの2つのエピソードから、年長さんと年少さんの関わりの中で年長児が1つ上の学年になったことで自覚が芽生え、自分がしてもらったことを子どもから子どもへ・・・と伝承していく姿や、異年齢という年齢の幅がある事により、気持ちを察したり同年齢ではなかなか気づけないことを子ども同士で解決することができるのかなと思いました。

現在、幼児クラスでは、選択ボードを使って日中だけでなく給食を食べる部屋を自分で選んだりすることなども取り入れています。自己決定はもちろん、年齢枠に囚われずに色々な友達との関わりを自分で選んでいく力も身につけていって欲しいなと思っています。他のクラスでも、色々とその年齢にあった選択活動や関わりを取り入れて保育しているので、またお伝えしていければと思います。連休明けは、子ども達も朝は離れづらく泣いてしまい、保護者の方も「せっかく慣れたのに」と不安に思われるかもしれませんが、しっかり気持ちを受け止め、様子をお伝えして保育していきたいと思っています。

